

令和3年度 学院運営評価調査

評価項目	(1)-7 即戦力となる人材の育成【2年生を対象】
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な現場作業を安全かつ的確に行う技術を有している</li> <li>○川上から川下まで産業全体の基礎知識を有している</li> <li>○就業後に必要な資格を取得している</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・即戦力となる人材を育成するためには、林業・木材産業の基礎から応用まで幅広い知識や現場で対応できる技術について習得させる必要がある。</li> <li>・学院の卒業生が就業先で即戦力として働くためには、現場作業で必要となる各種資格等を取得した上で、実習を反復練習し、技術の定着を図る必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が修学期間中にカリキュラムに定められている全ての単位を取得し卒業できるよう、必要に応じて補講や個別指導等を行いながら教育活動を計画的に進める。</li> <li>・生徒に各種資格等を取得させるとともに、草刈り機やチェーンソー、高性能林業機械等の操作技術を習得するための十分な実習時間を確保する。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響や就職活動等で出席日数が不足した生徒に対し、夏・冬季休暇等を利用して補講や個別指導を行った。</li> <li>・機械操作技術を習得するため、2年生で草刈り機、チェーンソー及び高性能林業機械の実習を延べ111時間実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修以外の資格等について、玉掛け(33名)、小型移動式クレーン運転(31名)、フォークリフト運転業務1t未満(16名)、機械集材装置運転業務(16名)及び簡易架線集材装置等運転業務(16名)を取得した。</li> </ul>	進展あり

2-1 成果指標の設定 (Plan)

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
	年度値	-	年度値	R3			
資格取得率	-	-	100%	100%	年度	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上級救命講習、刈払機取扱作業、伐木等業務従事者、不整地運搬車運転、荷役運搬機械等によるはい作業従事者、車両系建設機械(整地等)運転(3t以上)、走行集材機械運転業務及び伐木等機械運転業務の8資格等について、生徒全員が取得した。</li> </ul>
[指標の説明] 現場作業を安全かつ適確に行うために最低限必要な8以上の資格等を取得した生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	100%		
増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$		実績値	100%	達成率	100%	

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
	年度値	-	年度値	R3			
就職率	-	-	100%	100%	年度	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者数30名(卒業見込者33名)のうち、27名が道内の林業・木材産業に就業した(1月末)</li> </ul>
[指標の説明] 道内の林業・木材産業に就業した生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	100%		
増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$		実績値	90%	達成率	90%	

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針
進展あり	a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の資格取得を促進するとともに、教員の増員や実習補助員の確保、一部科目の委託化等を実施し、生徒が現場に必要な知識・技術を習得できるよう講義・実習体制の改善を図る。</li> </ul>

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果の指標の立て方についても妥当である。</li> <li>・生徒ごとに必要となる資格が違うため、それぞれの生徒が必要とする資格の取得率を目標や成果指標に設定してはどうか。</li> </ul>
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対し補講や個別指導を行っていることは評価できる。</li> <li>・チェーンソーなどの機械実習は十分行われている。</li> </ul>
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率が目標を下回っている原因を評価する必要がある。</li> <li>・即戦力として必要な技術が身につけているか、卒業生の就職先に対して追跡調査を行い、改善策に反映していただきたい。</li> </ul>
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職についての記載もあったほうが良い。</li> <li>・教員の増員や実習補助員の確保、一部科目の委託化は、資格取得等のために生徒が安定的に指導を受けられる環境づくりの上で重要である。</li> </ul>

令和3年度 学院運営評価調査

評価項目	(1)-イ 企業等の中核を担う人材の育成【2年生を対象】
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現場の統括管理や労働安全衛生、新たな技術による生産性向上など指導や企業経営マネジメントなどに関する知識を有している</li> <li>○林業・木材産業等の魅力を発信できる能力を有している</li> <li>○対話や情報分析を通じ地域の活性化に貢献する能力を有している</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等の中核を担う人材を育成するためには、企業経営に関するマネジメントや安全管理等に関する知識について習得させる必要がある。</li> <li>・森林づくりのビジョンや林業等の魅力を発信できる人材を育成するためには、生徒が実践的な知識・技術を習得するとともに、自ら考え行動できるよう教育活動を進める必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業経営者や林業機械メーカーの安全管理責任者等の外部講師を招聘し、専門的な見地から経営理念や安全管理に関する知識を習得できるよう講義や実習を行う。</li> <li>・林業の魅力を実感できる地域実習やインターンシップ活動、コミュニケーション能力を高めるための授業など、総合的な学習を推進する。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・延べ5人の外部講師により林業経営や労働法規、現場管理などを学ぶ講義を21時間実施した。</li> <li>・道内各地において4日間にわたる短期インターンシップを延べ45企業で2回、3週間にわたる長期インターンシップを延べ50企業で2回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討議や発表を通じ自分の考えをまとめ、伝えるといったコミュニケーション能力の向上を図るための木材流通コーディネートの授業を実施した。</li> <li>・自らが設定した課題を解決する自主研究等の授業を実施した。</li> </ul>	進展あり

2-1 成果指標の設定 (Plan)

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
成績優秀者の割合	年度	-	年度	R3	年度	R3	・当該分野に区分される科目「森林機能」について、生徒数33名のうち、成績評価が「優」は6名、「良」は15名。
	値	-	値	50%			
〔指標の説明〕 「林業経営」の分野において成績評価が「良」(70~79点)以上を得た生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	50%		
	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	64%		
				達成率	128%		

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
成績優秀者の割合	年度	-	年度	R3	年度	R3	・当該分野に区分される科目「長期就業実践研修(長期インターンシップ)」について、生徒数33名のうち、成績評価が「優」は30名、「良」は2名。
	値	-	値	50%			
〔指標の説明〕 「総合学習」の分野において成績評価が「良」(70~79点)以上を得た生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	50%		
	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	97%		
				達成率	194%		

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針
進展あり	a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場管理を学ぶとともに、実践的な知識や技術を習得する機会を一層確保するため、短期及び長期インターンシップの回数を2回から3回に増やす。</li> <li>・生徒の個性や能力、興味に応じたカリキュラムを提供するため、伐木技術・機械操作等のスキルアップを図る技能養成と、林業・木材産業の課題解決や新規ビジネス提案などを行う自主研究のどちらかを選択する「総合選択実習」を新たに開講する。</li> </ul>

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。	A	特に意見なし
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。	A	・成果指標の達成度合いから見ると、マネジメントやビジョンづくりに関する取組については改善の余地がある。 ・インターンシップは非常に有益な機会であり、引き続き受入企業の確保に努力されたい。
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。	A	・評価調査の成績優秀者の割合において、「森林機能」の成績評価についての評価分析しかないので他の判断材料も示してもよいのではないか。
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。	A	・インターンシップは、直接企業活動の現場を経験できる貴重な機会なので、その回数を増やすことは評価できる。 ・インターンシップの回数を増やす場合には、受入先となる企業の意向を十分に尊重いただきたい。

令和3年度 学院運営評価調書

評価項目	(2)身につけるべき能力を習得するための教育課程
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林調査・情報活用、林業経営、野生動物管理などの確かな森林調査・プランニング力を習得する課程となっている</li> <li>○育林技術、高性能林業機械などの機械操作・路網整備、森林保全など確かな森林施業の実践力を習得する課程となっている</li> <li>○森林活用、木育、木材の加工・利用など森林・林業の活用力を習得する課程となっている</li> <li>○コミュニケーションや合意形成、環境配慮、SDGsなど業務を円滑に進める行動力を習得する課程となっている</li> </ul>

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で初の2学年体制となる中、生徒に対し卒業に必要な単位数を確実に取得させる必要がある。</li> <li>・昨年度実施した教育課程に関するアンケート調査の結果を踏まえ、林業機械等の実習に係る生徒の待ち時間を短縮し、一人当たりの練習量を確保する必要がある。</li> <li>・フィンランドのリベリア林業専門学校との覚書に基づき、林業教育の充実を図るとともに、国際感覚を身につけた人材を育成する必要がある。</li> <li>・昨年度作成したチェーンソー技術やシミュレーターの指導方法マニュアルについて、2年次の実習内容を踏まえ更新する必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度教育計画に従って、授業を計画的かつ適切に実施する。</li> <li>・グループ単位で実習を行うとともに、林業機械等の台数を増やすなど、実習を効率的に実施する。</li> <li>・オンライン会議や海外研修等の実施を通じて、リベリア学校の教員及び生徒との相互交流を推進する。</li> <li>・マニュアルの更新とともに、動画を用いた教材の充実を図る。</li> </ul>

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言下で実習の中止や延期等を行ったが、冬季休暇の短縮やオンライン授業の積極的な導入等により概ね教育計画どおり実施することができた。</li> <li>・チェーンソー伐倒練習機3台、シミュレーター8台を追加するとともに、グラッブル1台を新たに配備し、常時練習できる環境を整備した。</li> <li>・リベリア学校のコンサルタントサービスであるEduSolutionを9回、シミュレーターの指導技術を学ぶトレーニングを20回オンラインで実施し、教育プログラムの改善を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、R3.10に道内で開催された森林・林業・環境機械展示実演会においてリベリア学校と共同ブースを設置し、両校の取組をPRLした。</li> <li>・チェーンソー及びシミュレーターのマニュアルを2年間を通じた内容に更新し、動画を用いてわかりやすく作成した。</li> </ul>	進展あり

2-1 成果指標の設定 (Plan)

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
生徒の授業満足度	年度値	R2 74%	年度値	R3 70%	年度	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対し教育環境整備や学校の情報発信、学生生活への支援体制など、学院運営に関するアンケート調査を令和4年2月に実施(回答率93%)</li> <li>・アンケート調査では、生徒から実習の待ち時間が長く練習量が少ないなどの意見が多かった。</li> </ul>
[指標の説明] 授業内容に関するアンケートにおいて、「概ね満足」以上と回答した生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	70%		
	維持	(実績値/目標値)×100		実績値	83%		
				達成率	119%		

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
高性能林業機械操作の習得	年度値	R2 58%	年度値	R3 70%	年度	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生のハーベスタ操作は、生徒数33名のうち24名がステップ3を達成した。</li> <li>・シミュレーターの増設により多くの練習時間が確保でき、生徒のスキルアップが図られた。</li> </ul>
[指標の説明] シミュレーター技能評価のステップ3(ベーシック)を達成した生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	70%		
	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	73%		
				達成率	104%		

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針
進展あり	a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職分野に応じた知識・技術を効果的に習得するため、より専門的な知識を学ぶことができる選択科目等を新たに設定する。</li> <li>・教員を増員することにより少人数の班による実施体制を整え、生徒の待ち時間の短縮を図る。</li> <li>・リベリア学校と連携し、教育プログラムの開発や海外研修等に取り組むとともに、高性能林業機械シミュレーター競技大会を開催するなど教育内容の充実を図る。</li> </ul>

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での対応も含め、シミュレーター等の環境整備やオンラインのプログラムなど適切である。</li> <li>・指標として「生徒の授業満足度」を設定していることは、受け身の立場の生徒が実習のやり方への要望を伝達できる手段であるので、重要であり評価できる。</li> </ul>
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伐倒練習機やシミュレーターを追加し、グラッブルを新規配備したことは、実地により修得が必要な技術を身に付けるうえで、重要な環境整備として評価できる。</li> </ul>
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。	A	特に意見なし
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員増員により少人数の班で実習ができる体制をつくることは、効率的な実習につながり評価できる。</li> <li>・知識や技術は日々進歩しているので、学院は常に最先端の知識と技術を発信する必要がある。</li> </ul>

令和3年度 学院運営評価調査

評価項目	(3)能力のある生徒の受け入れ
具体的な姿	○基礎的な思考力・判断力・表現力や文章の理解・作成力がある者を受け入れている ○北海道の林業・木材産業への強い関心がある者を受け入れている ○道内外からの入学者を確保している

1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	・昨年度の新卒者を対象とする推薦入学者は、定員の8割を占めており、意欲の高い生徒を安定的に確保するためには、社会人経験者も一定程度確保する仕組みを構築する必要がある。 ・コロナ禍で地方での暮らしや林業への関心層が多様化している中、これまで以上に幅広く人材を確保する必要がある。
取組内容	・入学者選考要領を見直し、一般入試受験者の拡大を図る。 ・オンラインなどのツールを活用し、道外からの入学者数の拡大を図る。

1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等	定性評価
<p>・推薦入試の出願資格要件である成績評定点を上げることで、推薦入試の出願者を抑制して、一般入試の出願枠を拡大した結果、合格者全体に占める推薦入試による合格者の割合が5割に減少した。</p> <p>・道内3箇所及び東京会場における推薦入試や、福岡を加えた5会場で一般入試を実施し、全国での受験機会を確保した。</p> <p>・学院ホームページの充実やオープンキャンパスオンラインを展開し、道外の志望者が学院の情報を入手しやすい環境を整備した。</p> <p>・対面とオンライン合わせて計10回の学院説明会やオープンキャンパスの開催、道内24高校への訪問、東京で開催された移住交流フェア等への参加、SNSや北森カレッジ通信など多様なツールにより積極的に情報発信した。</p>	進展あり

2-1 成果指標の設定 (Plan)

2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
	年度	R2	年度	R3			
入学者数	年度	R2	年度	R3	年度	R3	<p>・学院SNSにより学校生活や入試情報を随時発信するとともに、生徒や新校舎がメディアに取り上げられるなど当学院の知名度が向上した結果、出願者数が44名となった。</p>
	値	40人	値	40人			
[指標の説明] 当学院の入学者数	増減方向	達成率の算式		目標値	40人		
	維持	(実績値/目標値)×100		実績値	40人		
				達成率	100%		
指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
道外からの入学者数	年度	R2	年度	R3			
	値	8%	値	15%	年度	R3	<p>・オンラインなどのツールを活用し、学院PRを積極的に行った結果、道外出身者の割合が増加した。</p>
[指標の説明] 入学者に占める道外出身者の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	15%		
	増加	(実績値/目標値)×100		実績値	18%		
				達成率	120%		

3-1 一次評価 (Do & Check)

4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針
進展あり	a	A	・今年度の実績を踏まえ、入学試験を適切に実施するとともに、オンラインなどのツールを活用し、道内外向けの学院説明会を積極的に開催するなど学院の魅力を広く発信し、入学者の確保を図る。

3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定をされているか。	A	・「道外出身者の割合」だけにこだわらず、学校推薦や社会人経験者など学生の多様性が評価される指標を検討してはどうか。
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。	A	・SNS等により学院や学生生活の情報発信を増やすことで、これまで以上に幅広い人材確保につながるものと評価できる。
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。	A	・募集定員40名の入学者を確保できたことは評価に値する。 ・学院の認知度も上昇していることがうかがえる。 ・入試で高得点であった生徒を多く受け入れたなど、能力のある生徒を受け入れという評価結果を示してはどうか。
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。	A	特に意見なし

# 令和3年度 学院運営評価調書

評価項目	(4)学院の適切な運営
具体的な姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会のニーズを踏まえた教育環境を整備している</li> <li>○教育活動等に関する情報を公開している</li> <li>○就職に関する支援体制を整備している</li> <li>○学院の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献を行っている</li> <li>○生徒生活に対する支援体制を整備している</li> <li>○卒業生に対するフォローや連携等を行う体制を整備している</li> </ul>

## 1-1 目標等の設定 (Plan)

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席日数や成績評価など生徒や教職員の利便性を高めるため、効率的な学院運営ができる環境を整える必要がある。</li> <li>・学校生活や運営状況等を広く周知するため、保護者や関係機関への情報発信が必要である。</li> <li>・卒業生を道内の林業・木材産業に着実に就業させる必要がある。</li> <li>・生徒の成績評価は各教員の判断に任せられていることから、学院の教育水準を維持・確保するための仕組みを構築する必要がある。</li> </ul>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のデジタル化に対応した教材や学院運営に係る支援ツールを整備する。</li> <li>・SNSや定期刊行物等を活用し、学院の教育活動について積極的に情報発信する。</li> <li>・職業紹介事業の実施や企業訪問等を通じて、生徒の就職先を確保する。</li> <li>・生徒の成績を適切に評価するための統一的な基準や方法を策定する。</li> </ul>

## 1-2 取組の結果 (Do & Check)

実績と成果等		定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の利用をはじめ、オンライン授業の円滑化や各種情報をクラウドで共有できるシステムを検討し導入した。</li> <li>・日々の授業風景や学校情報をSNSや北森カレッジ通信「OGARU」(年3回発行)、雑誌等への寄稿、地域イベントなど多様なツールを活用し、広く情報発信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業紹介事業により1月末で94社から162名の求人票を受理するとともに、延べ28名の生徒の紹介状を発行したほか、面接指導など就職支援を積極的に行った。</li> <li>・生徒の成績を評価するための統一的な方法や基準、科目毎の到達目標を具体化した成績評価基準を策定した。</li> </ul>	進展あり

## 2-1 成果指標の設定 (Plan)

## 2-2 成果指標の達成度合 (Do & Check)

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
定期的な情報発信	年度 値	R2 147回	年度 値	R3 150回	年度	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たにInstagramを導入し、1月末までに学院公式SNSへ延べ174回投稿した(Facebook64回、Twitter62回、Instagram48回)。</li> <li>・フォロワー数はFacebookで約1,700人を獲得した。</li> </ul>
[指標の説明] 学院公式SNSに学院運営に関する情報を投稿した回数	増減方向	達成率の算式		目標値	150回		
	増加	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$		実績値	174回		
				達成率	116%		

指標名	実績		目標		定量評価	a	評価分析ほか
学院運営に対する満足度	年度 値	R2 86%	年度 値	R3 80%	年度	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対し教育環境整備や学校の情報発信、生徒生活への支援体制など、学院運営に関するアンケート調査を令和4年2月に実施(回答率93%)した。</li> </ul>
[指標の説明] 学院運営に関するアンケート調査において「概ね満足」以上と回答した生徒の割合	増減方向	達成率の算式		目標値	80%		
	維持	$(\text{実績値} / \text{目標値}) \times 100$		実績値	85%		
				達成率	106%		

## 3-1 一次評価 (Do & Check)

## 4 改善策 (Action)

定性評価	定量評価	総合評価	対応方針
進展あり	a	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルプラットフォームであるKIETOS(北森教育総合システム)の本格運用により、アフターコロナの時代に相応しい質の高い教育環境を提供する。</li> <li>・学院の教育活動に関する情報をSNS等により発信するとともに、定期刊行物や情報誌への寄稿を積極的に行う。</li> <li>・職業紹介事業の着実な実施や面接指導等を通じて、生徒の就職先を確保する。</li> <li>・同窓会を設立し卒業生同士の連携を促すとともに、就職先の定着状況を追跡し、必要に応じて指導・助言を行う。</li> </ul>

## 3-2 二次評価 (Do & Check)

評価項目	評価	意見
1 実施方法 改善策を踏まえた目標や成果指標が適切に設定されているか。	A	特に意見なし
2 取組内容 目標等の達成に向けた取組みは適切か。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等による情報発信は学院を全国にPRする有効なツールとなっているので、今後も積極的に取組んでいただきたい。</li> <li>・関係団体からの支援について、生徒の評価をアンケート調査で把握し、SNSや北森カレッジ通信などにより対外的に発信していただきたい。</li> </ul>
3 評価結果 取組みの実績や成果は適切に評価されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSを活用した情報発信は非常に効果的であり、今後も積極的に推進してほしい。</li> </ul>
4 改善策 改善策は適切に立てられているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や社会ニーズに合った効率的な学院運営が進んでいると評価できる。</li> <li>・経済状況の変化に関わらず求人確保できる、人材育成の強みが必要である。</li> <li>・卒業生を道内企業へ確実に就職させるため、インターンシップや外部講師の招聘など、引き続き関係企業との連携をお願いしたい。</li> </ul>